

## 令和6年度 事業報告

令和6年（2024年）度は、仙台フィル創立50周年を越え、次の100年へ向かう「進」時代と位置付け、新たな聴衆拡大を狙い、名曲トラベルとエンターテインメント定期の二つの新シリーズを立ち上げました。定期演奏会の指揮者は常任指揮者の高関健、指揮者の太田弦を中心にして、バラエティ豊かな演目を揃えながら、人気アーティストを招聘し、集客力のアップと仙台フィルのブランド力、演奏力の強化を図りました。

チケット販売の効率化を目的に、新たな販売システムである「ぴあ Gettii」を23年2月より導入し、24時間、座席を指定して購入できるようにし、併せてクレジット決済も使用できるようにしました。

定期演奏会や特別演奏会の会場で、公演の予約を受け付ける試みや、定期演奏会時の飲食物販売の再開、地下鉄イベントボードへの積極的な広報を開始したほか、LINE、X、Facebook、Instagram等のSNS上での広報活動の充実を図りました。

河北新報社紙面においては主催公演等の特集記事を継続していただいています。

このような取り組みが功を奏し、令和6年度はすべての定期演奏会のチケットが完売するという仙台フィル始めて以来の記録を樹立しました。

特別演奏会も、オーケストラと遊んじゃおう、名曲トラベルについては第1回から3回まで、第九特別演奏会も完売となりました。

このほか、楽団の活動を広くPRするため、各メディアと協力し、エフエム仙台ラジオ番組「仙台フィル Wave Symphony」や、tbc東北放送の「日立システムズエンジョイ！クラシック」に楽団員、事務局員が出演するなど、情報発信に努めてまいりました。

更に、定期演奏会の出演者による「聴きどころ」を、毎回仙台フィル公式YouTubeチャンネルで引き続き配信しています。また、昨年度から開始した、公式YouTubeチャンネルにおいて著作権に抵触しない楽曲をフル配信する取り組みでは、11月、1月、2月の定期演奏会のメイン楽曲を配信しています。

## 1 楽団経営健全化への取り組み

令和6年度は「経営健全化に向けた新たな取り組み」の7年目でした。

引き続き「適正な編成規模への見直し」により経営の健全化を図ることを進めてきました。

退職不補充により、パート毎に定めた適正な人数を令和9年度（2027年度）には達成（楽団員66名体制）することを目標としておりますが、年央退職者や再雇用終了の楽団員がおり令和6年度末現在の楽団員数は63名となり、オーディション開催により適正人員の確保を進めています。

コロナ禍で減少した依頼公演数を取り戻すべく営業活動にも力を入れ、billboard CLASSICS2公演、弘前公演、OMORIコンサート in 仙台2公演、道南うみまち信用金庫100周年記念公演、全国共同オペラ「ラ・ボエーム」公演などの受託に繋げてまいりましたが、仙台駅のコンサートが室内楽に変更になったことや、文化庁学校公演も以前のような回数には届かないなど公演数の大幅増は叶わず、引き続きさらなる公演獲得が課題となっております。

## 2 交響管弦楽の演奏

### （1）定期演奏会（9回（18日） 18公演）

令和6年度は常任指揮者高関健、指揮者太田弦の就任2年目として、二人の指揮者の魅力が伝わるよう、それぞれの指揮者に合った人気の高い作品を並べました。またオーケストラのアンサンブル能力向上と幅広いレパートリーを極めることを狙い、世界的に活躍するソリストを招聘し技術を一層高める一年という位置づけで構成しました。

シーズンオープニングを飾る5月24日、25日の第372回定期演奏会は、常任指揮者の高関健の登壇で幕を開けました。

ソリストには2022年ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールにおいて史上最年少の18歳で優勝したピアニスト、イム・ユンチャンを迎えました。

繊細でロマンティックな旋律を持つショパンのピアノ協奏曲第2番を、イム・ユンチャンは確かなテクニックと、感覚的かつ頭脳的な音楽性で演奏を立体的に表現し、聴衆を魅了しました。

後半のプログラムは生誕200年の記念の年にあたる作曲家、ブルックナーが

生涯最後に書き上げた交響曲第 9 番。高関健の緻密な読譜力、的確な棒捌きに導かれ、スケールの大きい美しく深みのあるこの作品の魅力を十分に引き出しました。

イム・ユンチャンは出身国の韓国でも相当な人気を誇り、この定期演奏会には 2 日間の公演に韓国から約 300 人の聴衆が訪れ、演奏後にはスタンディングオベーションと共に割れんばかりの大歓声に包まれました。

韓国からご来場されるお客様のために、事前に SNS を利用して演奏会場での注意事項等を韓国語で発信し、ロビーには韓国語スタッフを配置するなど、運営面でも工夫しました。

6 月 21 日、22 日の第 373 回定期演奏会では、指揮者の太田弦が登壇し、前半にはハンガリーを代表する作曲家のコダーイの作品を二つ、後半にはロシアの作曲家であるショスタコーヴィチの作品を配しました

あまり演奏されることのないコダーイの作品の 1 曲目は「ガランタ舞曲」。作曲家自身が幼少時代を過ごしたガランタ地方の舞曲で郷愁と愛情に彩られた作品です。

2 曲目の「くじゃくによる変奏曲」は、ちょうど第 2 次世界大戦が始まった年に作曲された自由を求める情熱的な想いを描いたハンガリー民謡。国際情勢が混乱を極めつつある中で、あえてこの作品を選んだ太田の平和への想いを窺い知ることができる演奏会となりました。

後半に演奏したショスタコーヴィチの交響曲第 5 番は、ショスタコーヴィチの交響曲の中でも群を抜く人気作品です。この作品を通してショスタコーヴィチが何を表現したかったのかは、作曲家自身の発言等も含め様々な資料や記録が残されてはいるものの、その真意については様々な議論があり、多種多様な解釈が生まれています。このような中で太田がどのような回答を導くのが問われる演奏会になりました。

この演奏会については、行間を見事に表現し、巧みな指揮による意欲的なプログラムでそれぞれの曲の魅力を再発見できる感銘深い演奏会だったと評されました。

なお、吹奏楽にもなじみが深いプログラミングのため、若い世代の聴衆が多くご来場されました。

またこの定期演奏会から、コロナ禍で中止となっていた開演前と休憩中のホ

ワイエでの飲食物販売を再開し、多くのお客様に好評を得ています。

7月19日、20日の第374回定期演奏会は、当初出演を予定していたピアニストのアレクサンドラ・ドヴガンが急遽キャンセルとなったため、仙台出身の人気ピアニストである小山実稚恵にソリストを変更し、プログラムはそのままに開催しました。

指揮者には小中学校時代に仙台で生活し、仙台国際音楽コンクールでも縁の深い、広上淳一を招聘しました。

プログラム1曲目は広上が恩師と仰ぐ一人である尾高惇忠作曲の「音の旅」。もともとは宮沢賢治の童話をモチーフとした子供向けのピアノ曲として作曲されたものを、広上のたつての願いで管弦楽版に編曲され完成されましたが、尾高はこの管弦楽版を聴く前に2021年天国に旅立ちました。広上の恩師の作品への愛情が吹き込まれたような優しい演奏となりました。

2曲目はモーツァルトの特に人気の高い作品であるピアノ協奏曲第20番。

数あるピアノ協奏曲の中でも短調の作品はこの20番と24番のみであり、軽やかな作風が多い中で、特にこの第20番目の作品では激しい情熱の表出がみられつつ、モーツァルトらしい愛らしい一面も顔をのぞかせます。

小山は豊かな情感を表現し、長年共演を重ねる広上そして仙台フィルと息の合ったアンサンブルを構築し聴衆を魅了しました。

後半に演奏したマーラーの交響曲第1番は、広上のダイナミックな指揮の元、会場を巻き込むような大きなうねりをまとう熱演となり、質が高いだけでなくライブでしか味わえない体全体を通して感じる深い感動を与えました。

9月6日、7日の第375回定期演奏会は、1983年から1988年、当時の宮城フィルの首席客演指揮者を務めた小林研一郎を迎えてお届けしました。

小林研一郎が最も得意とするレパートリーであるモーツァルトの交響曲第40番とチャイコフスキーの交響曲第5番をプログラミングしました。

モーツァルトの3大交響曲の1つである第40番は楽譜にはない独特の「間」を作り小林節をいかに発揮。しなやかな弦楽器と管楽器の対話も生み音色の違いや変化により作品に陰影をはっきりと主張した仕上がりとなりました。

後半のチャイコフスキーの交響曲第5番は、炎のコバケンと言われる由縁を表現し度肝を抜く味付けで、即興的で、斬新な表現に徹した内容でした。終楽章

では、過酷な運命に打ち勝ったような主題を演奏するホルンにベルアップを求めたり、指揮を止めて客席のはるか後方に音楽を届けようとする仕草を見せるなど、見た目にも聴衆の心を射抜くような演出もあり怒涛の拍手とブラボーの声援に包まれ終演しました。

10月18日、19日の第376回定期演奏会は、出身国ドイツのみならず、世界の歌劇場でオペラ指揮者として活躍し、その後世界の名だたるオーケストラに客演し仙台フィル初登壇となる準・メルクルを招聘しました。

取り上げたのはドイツ・ロマン派を代表する作曲家の一人であるメンデルスゾーン。

1曲目には海の精霊メルジーネの伝説をもとにしたオペラ作品に着想を得た演奏会用序曲である「美しいメルジーネの物語」。美しくもはかないメロディーをオペラに精通するメルクルが奇をてらわない仕上がりにまとめ、作品の魅力を伝えました。

2曲目の交響曲第4番「イタリア」と3曲目の第3番「スコットランド」は、旅好きな作曲家がその土地を訪れた印象からインスピレーションを得て作曲された作品です。

「イタリア」では、陽気な土地柄を反映したラテン系の情熱溢れる作品を躍動感あふれる情熱的な演奏に仕上げました。

「スコットランド」は中世の古城をモチーフにしたファンタジー溢れる作品で、悲しげな風景から構想を始め12年の歳月を費やして完成された大作です。

準・メルクルはオペラ指揮者として培った歌心をベースにしつつ、メンデルスゾーンらしい端正な作品を譜面どおりに再現し、オーケストラへは正確な解釈と奏法、アンサンブルを求め、仙台フィルの演奏を高めへと導いた好演となりました。

11月22日、23日の第377回定期演奏会は常任指揮者の高関健指揮、仙台国際音楽コンクールヴァイオリン部門審査委員長の堀米ゆず子をソリストに迎え開催しました。

メンデルスゾーンがゲーテの2つの詩「海の静けさ」と「楽しい航海」から着想を得て、21歳の時にローマで作曲した演奏会用序曲「静かな海と楽しい航海」を1曲目に据えました。後半のモチーフが「エニグマ」へ引用されていることか

ら、高関の選曲の狙いが垣間見えました。

2曲目にはブルッフの名作、管弦楽とハープを伴うヴァイオリンソロのための協奏曲であるスコットランド幻想曲を、堀米ゆず子のヴァイオリンで披露しました。

堀米の確かなテクニック、深みのある音色と多彩な表現力により、オーケストラとの音楽的対話が見事に表現されました。

メインに演奏したエルガー作曲の変奏曲「エニグマ」では、高関の緻密な音楽作りにオーケストラが応え、輪郭がはっきりとした情熱を内に秘めた端正な演奏でお客様へ英国音楽の神髄を提示しました。

なお、「エニグマ」については現在仙台フィル公式 YouTube チャンネルにて全編配信中です。

1月24日、25日の第378回定期演奏会は太田弦指揮、ソリストには地元多賀城市出身で、現在NHK交響楽団の第1コンサートマスターを務めるヴァイオリニスト、郷古廉を招聘しました。

さわやかなシューベルトの序曲に続き、郷古が選んだ作品は、オーストリアとアメリカで活躍し、特にオペラと映画音楽でその才能を発揮した作曲家コルンゴルト作曲のヴァイオリン協奏曲。

郷古のソリストとしての評価は年々高みへ向かっており、さらにオーケストラのコンサートマスターというポジションで活躍しているが故に、アンサンブルへの理解力が増し、ヴァイオリンの演奏のみならずオーケストラとの対話も見事で、この難曲を難しく聴かせることなく、映画音楽がさらりと耳に入るように演奏し、「透明感あふれる音色。夾雑物のない響き」と評されました。

後半には2015年以来10年ぶりの演奏となる大編成を誇る作品、生誕150年を迎えたイギリスの作曲家ホルストの名作である組曲「惑星」を取り上げました。

神秘的なものを愛したホルストが、人の運命をもつかさどる星の配列を意識して作曲した4管編成の作品で、作曲当初は「大オーケストラのための7つの曲」とも標題されていたとおり、その迫力は太田弦のダイナミックな指揮により見事に表現されコンサートホールへ響き渡りました。

終曲の「海王星」では、地元で活躍する声楽家(女声合唱とカウンターテナー)を集めたこのプログラムのためだけの合唱団「コロディア★プラネテス」が神秘的な合唱を歌い上げ作品を締めくくり、聴衆から大きな喝采を浴びました。

2月21日、22日の第379回定期演奏会は生誕200年を迎えたチェコ国民楽派の作曲家、スメタナ作曲の交響詩「我が祖国」を常任指揮者の高関健が取り上げました。

高関が指揮者を目指すきっかけのひとつが、1969年に来日したチェコフィル（ヴァーツェラフ・ノイマン指揮）の我が祖国ということもあり、入念な準備がなされていました。

使用した譜面はいわゆる原典版に長年チェコフィルが改定を重ねた版の中身を照らし合わせた、いわば高関オリジナル版ともいうべきものです。

スメタナ特有の非常に密度の高い幾重にも音が重ねられた音楽を、一つ一つ丁寧に紐解き、味付け、完成品として提供した極上の音楽は、現在の仙台フィルが持てる演奏力・表現力・アンサンブル能力を高みへと引き上げ、大きな喝采を浴びる結果へと導きました。

3月14日、15日の第380回定期演奏会は常任指揮者の高関健の指揮、ソリストには2016年第6回仙台国際音楽コンクールピアノ部門第4位に入賞後、2021年ショパン国際ピアノコンクールで見事優勝に輝いた実力者ピアニストのブルース・リウを招聘しました。

1曲目にはチェコの伝承に基づくドヴォルザークの序曲「真昼の魔女」を取り上げ、2曲目にはショパン国際ピアノコンクール優勝時にブルース・リウが演奏したショパンのピアノ協奏曲第1番を披露しました。

確固たる信念と歌心あふれるブルース・リウのピアノ独奏に、高関健の緻密なタクトとそれに寄り添うオーケストラは見事なアンサンブルを構築しつつ、聴き手の心を鷲掴みにし、大きな喝采に包まれました。

後半は演奏機会が少ないデンマークの作曲家、ニールセンの交響曲第6番を取り上げました。素朴な交響曲という副題は名ばかりで、複雑に入り組んだ作曲技法や実験的要素、ユーモア、風刺を盛り込んだ難曲を、常任指揮者の高関は明確に分析し、レベルの高い演奏を聴衆に示しました。

## （2）特別演奏会（15回 16公演）

特別演奏会については、4月7日、毎春恒例の0歳児から入場できる子供向けコンサート「オーケストラと遊んじゃおう！2024」を、日立システムズホール仙台において開催しました。コロナ禍以前は、オーケストラのすべての楽器を体

験していただいていた「楽器博物館」は、コロナ禍が明けた今年も管楽器は除いたものの、弦楽器・打楽器については再開し、多くの子供たちが楽しそうに演奏を体験していました。

また人気体験コーナーの指揮者体験は、コンサートホール舞台上にて木管五重奏を編成し、限定 50 名の子供に体験していただきました。

さらにコンサートでは、耳なじみのある楽曲を構成したプログラミングが大変好評となりました。

なお、このコンサートにはコロナ禍前にゲストとして招聘する予定としていながら、コロナ禍で 2 度のキャンセルとなっていた声優の TARAKO に 3 年振りに登壇いただく予定としていましたが、開催 1 か月前に急逝されたため、NHK 教育テレビ（当時）の人気番組である「おかあさんといっしょ」で第 18 代歌のお姉さんを務め、この公演にも過去に何度か招聘したことのあるつのだりょうこを代役として起用しました。

4 月 10 日には新シリーズの 1 つである名曲トラベル第 1 回の公演が始まりました。平日水曜日午後 2 時開演とし、週末や夜の公演に足を運びづらい方々や、退職後に新たな趣味としてクラシック音楽鑑賞を始めた方々などの新たな顧客の開拓を目指しました。演目は誰もが知っている有名作曲家の名曲にスポットを当て、パンフレットの解説にはアニメ「クラシカロイド」のキャラクターを使用した、若者にも取りつき易く、わかりやすい構成とし、帰宅後の家族団らんの場で話題として取り上げていただけるよう工夫しました。

第 1 回目に取り上げた作曲家は楽聖ベートーヴェン。常任指揮者の高関健を指揮者に迎え、有名曲である交響曲第 6 番「田園」、交響曲第 5 番「運命」というベートーヴェンが初演した時と同じ演奏順でプログラミングし、大変好評をいただきました。

5 月 4 日にはもう 1 つの新シリーズであるエンターテインメント定期第 1 回が始まりました。

このシリーズはバンダイナムコ各社と提携し、クラシック音楽やオーケストラコンサートに馴染みがないアニメファンの方々にフルオーケストラが演奏するアニメの劇伴音楽を体験してもらうことで、オーケストラの魅力を知るきっかけとなるよう企画しました。

またイズミティ 21 が、2 年間の改修工事を終えて 2024 年度から営業再開となることから、リニューアルオープン事業という位置づけとしました。

第 1 回目の公演で取り上げた作品は、2006 年 10 月から 2007 年 3 月までテレビ放送され人気を博したアニメ「コードギアス 反逆のルルーシュ」並びに 2008 年 4 月から 9 月まで放送された続編の「コードギアス 反逆のルルーシュ R2」。その劇伴音楽をフルオーケストラ編成で演奏できるように編曲し「シンフォニックコードギアス リベリオン」と題し開催しました。

この公演には全国から大勢のファンが集まり、大変な盛り上がりを見せ、アンケートには仙台フィルのクラシック公演にも行きたいという意見も数多く寄せられました。また SNS にも、仙台フィルのこのような取り組みを支持する声が多数見受けられました。

一方、集客面では満席とはならなかったことから、今後のチケットセールスの営業先の開拓などの面で課題が残りました。

6 月 26 日には、名曲トラベル第 2 回が開催され、モーツァルトを取り上げました。

この公演では 4 月よりゲストコンサートマスターに就任した小森谷巧が、指揮・ソロ・コンサートマスターという 3 刀流の活躍を見せました。

前半の「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」ではコンサートマスターを、後半 1 曲目のヴァイオリン協奏曲第 3 番ではソリストを、メインの交響曲第 39 番では指揮者を務めた小森谷は、東京交響樂團を経た後に長年読売日本交響樂團でコンサートマスターを歴任した経験に基づく的確なリーダーシップを発揮して、微塵の乱れもない演奏を構築し、華やかなモーツァルトの雰囲気巧みに醸し出して、オーケストラはもとより聴衆からも深い信頼を勝ち取っていました。

8 月 3 日には昨年好評を博した宮川彬良とのサマーフェスティバル第 2 弾、仙台フィルハーモニーwith アキラさん スペシャルコンサート vol.2 を開催しました。

昨年同様 5 歳から入場可能とし、アキラさんの軽妙で分かりやすいトークと、子供向けのピアノ曲をオーケストラの演奏とアキラさんのピアノで表現する楽しい演出で会場を盛り上げました。

また、アキラさんの父・宮川泰が作曲された宇宙戦艦ヤマトの放映 50 周年を

記念して取り上げ、子供から大人まで楽しめるコンサートになりました。

昨年と同様に、開場時にお客様からアキラさんへの質問を集め、休憩中にその質問の一部にアキラさんが直接舞台上から答える企画も好評で、紹介しきれなかった質問には、終演後アキラさんがすべての質問に回答する様子を収録し公式 you tube チャンネルにて後日配信しました。

8月10日にはエンターテインメント定期第2回として「機動戦士Zガンダム」、「機動戦士ガンダム逆襲のシャア」を取り上げました。

国民的人気アニメの劇伴音楽ということもあり、第1回よりも多くのお客様にご来場いただきました。

この2作品の劇伴音楽の譜面は長らく紛失していましたが、今回の企画に伴い譜面を搜索したところ、バンダイナムコミュージックライブの倉庫から手書きの楽譜が奇跡的に発見されました。

演奏会当日は、この作品の作曲家で文化功労者でもある三枝成彰氏をコンサートにお招きしましたが、客席の三枝成彰氏の周りにはサインを求めるお客様が休憩中に長い列を作っていました。

また、往年のガンダムファンからは演奏会の開催に感謝の声が多数寄せられ、再演を望む声も多く届いています。

なおこのコンサートの開催に際し、2013年のロシア公演以来となる時事通信社の取材を受け、同社が運営するニュースサイト「時事ドットコム」が記事をXに投稿したところ、26,000を超える驚異的なアクティビティ（閲覧者数）を記録しました。またYahoo ニュースにも掲載され大きな話題となったほか、仙台放送 Live News イット！の中でも特集コーナーに取り上げられています。

8月25日に岩沼市民会館で開催した「マイタウンコンサート」では、地元岩沼市在住のソプラノ声楽家である小野綾子をソリストに起用し、モーツァルト作曲の歌劇「ツァイーデ」より“安らかにお休みください”や同じくモーツァルト作曲のモテット「踊れ、喜べ、幸いなる魂よ」より3曲を、そしてヘンデル作曲の歌劇「リナルド」より“私を泣かせてください”などの歌曲を披露しました。

小野は長年継続している「岩沼第九」公演でも合唱の指導者として活躍し、仙台フィルとも共演を重ねている地元の俊英ということもあり、昨年を上回る集客を達成しました。

指揮者には現在人気上昇中の坂入健司郎を迎え、小野綾子の透き通る歌声とブラームスの交響曲第1番の熱演で多くの聴衆を魅了しました。

9月10日には、名曲コレクション in 盛岡公演を「オーケストラの王道」と題し、第375回定期演奏会の内容そのままに盛岡市民文化ホールにて開催しました。

指揮者の小林研一郎はここでも作品を大きく捉え、メリハリのある音楽作りで得意の楽曲を届けました。

仙台での定期演奏会で感動し盛岡にも駆け付けたお客様のほか、東北地域を飛び越えて全国からファンが集まり、小林の想いのこもった曲目解説に心を打たれながらコンサートを楽しんだお客様からは、終演時のカーテンコールの際に多くのブラボーの声援と割れんばかりの拍手が贈られ、ホール内にこだましていました。

12月18日には、名曲トラベル第3回が開催され、チャイコフスキーの3大バレエである「眠れる森の美女」、「白鳥の湖」、「くるみ割り人形」を取り上げました。普段から断片的に作品にふれあう機会がある名曲揃いですが、今回は物語のストーリーに沿いながら演目を並べたことにより、よりドラマティックに、そしてわかりやすくお届けしました。

こちらの公演も大変好評で、11月5日には完売しました。

12月21日には年末恒例の第九特別演奏会を東京エレクトロンホール宮城で開催しました。

新型コロナウイルスの影響もだいぶ落ち着いたこともあり、昨年よりも合唱人数を拡大し、仙台フィルと第九を歌う合唱団、常盤木学園高等学校音楽科1・2年生、宮城学院女子大学学芸学部音楽科有志、合わせて約160名（昨年比約20名の増員）の市民合唱団を編成することが叶いました。

公演のソリストには太田弦が信頼を置く小川栞奈（Sop, 秦茂子より急遽変更）、山下裕賀（Mz.Sop）、樋口達哉（Ten）、黒田祐貴（Bar）を据え、市民合唱団と共に高らかに歓喜の歌を響かせました。

なお、1曲目にはベートーヴェン円熟期の作品である序曲「コリオラン」を置きました。

このコンサートも大変好評につき、11月19日には完売しました。

2025年1月11日に福島市音楽堂大ホール、13日にいわき芸術文化交流館アリオスアルパイン大ホールにて、指揮者に田中祐子を迎え開催を予定しておりましたニューイヤーコンサートは、指揮者の田中祐子が公演直前にインフルエンザに罹患し出演が叶わなくなったため、副指揮者の神成大輝が急遽代役として登壇しました。ソリストには福島県郡山市出身のピアニストで、2023年第64回ブゾーニ国際音楽ピアノコンクール（イタリア）で第3位に入賞した、山崎亮汰を抜擢して開催しました。

オール・ベートーヴェン・プログラムで臨んだ今回は、1曲目にベートーヴェン唯一のオペラ作品である歌劇「フィデリオ」序曲、そして「フィデリオ」に続き作曲されたピアノ協奏曲第4番、さらにこの協奏曲に続いて作曲された交響曲第5番「運命」と、ベートーヴェンがほぼ同時期に作曲した作品をプログラミングしました。

現在アメリカで研鑽を積んでいる山崎亮汰は、ピアノ協奏曲第4番の演奏は初挑戦でした。独奏ピアノが伴奏役に徹するオーケストラと対峙する協奏曲というよりは、ピアノとオーケストラがそれぞれ主役になり対話するこの作品はテクニックのみならず、アンサンブル能力も試されますが、山崎は奇をてらうことなく真摯に作品とオーケストラに向き合い、ピアニストとしてのポテンシャルの高さを示しました。

メインの交響曲第5番は、急遽代役指揮者を務めることになった神成はすべてのリハーサルを客席で聞いていたこともあり、田中祐子の意志を引き継ぎながら見事にまとめ上げました。その姿が福島・いわきのお客様の心をしっかりと掴み取り、この地域のコンサートでは珍しく大勢のお客様からのスタンディングオベーションを誘っていました。

3月5日には名曲トラベル第4回として室内楽の編成でシューベルトの珠玉の歌曲「ます」、「子守歌」、「魔王」をソプラノの宮地江奈、テノールの西村悟を迎え、きらびやかなそして荘厳な歌声で披露し、後半にはソプラノの宮地江奈、ホルンゲスト首席奏者の山岸博、ピアノの居福健太郎という豪華メンバーで「流れにて」、そして仙台フィルコンサートマスターやソロ首席陣とピアノの居福健太郎の室内楽で、弦楽五重奏曲の名曲中の名曲である「ます」を取り上げました。

オーケストラサウンドとは一味違った、個人の持つ「音楽」と「妙技」が冴えわたる室内楽演奏により、新たな仙台フィルの一面を提示することができ、多くのお客様に新たな演奏スタイルの楽しみを味わっていただきました。

3月20日にはエンターテインメント定期第3回として「アイカツ！」シリーズ『オケカツ！』を取り上げました。

指揮者にはこのシリーズのコンサートを以前にも他の楽団で指揮したことがあり作品への造詣も深い水戸博之を据え、スペシャルゲストとしてキャラクターボイスなどを担当している人気歌手である遠藤瑠香、伊達花彩（仙台市出身）、天音みほ、星咲花那を招き豪華に開催しました。

人気シリーズのオーケストラコンサートということもあり、ほぼ満席のお客様に迎えられ、演奏会後のSNSも大変な盛り上がりを見せるなど、楽団の活動の一端を普段クラシックコンサートに馴染みのない方々へ知っていただく大きな機会となりました。

### （3）依頼演奏会（69公演（新規8公演を含む））

令和6年度はコロナ禍が落ち着き、従来の形で演奏会を開催されるようになりました。コロナ禍で減少した依頼演奏会も徐々に回復しつつあります。仙台駅のコンサートは室内楽公演に規模を落としておりますが、仙台市内の小学校5年生と中学校1年生を対象とした「青少年のためのオーケストラ鑑賞会」はコロナ禍以前のように日立システムズホール仙台コンサートホールで全14公演開催されるようになりました。

新規公演として昨年倉木麻衣との共演で話題を呼んだ billboard CLASSICS から2公演のオファーがあり、4月27日、29日にゴスペラーズ、玉置浩二と共演しました。

6月2日には、(株)工藤工務所から弘前公演の依頼を受け、八戸出身の指揮者松井慶太と弘前出身のオーボエ首席奏者西沢澄博をソリストに抜擢し、弘前では他団体のプロオーケストラ公演も含め数十年ぶりに本格的なシンフォニーコンサートを披露し多くのお客様に楽しんでいただきました。

7月15日には、仙台市青年文化センターと仙台市市民文化事業団の主催により12年30回に亘りご好評いただいたオーケストラ・スタンダードシリーズの後継事業となるオーケストラ・ザンマイ！シリーズが始まりました。Vol.1とし

て、ヨーロッパの歌劇場で活躍し始めた指揮者の熊倉優を招聘し、また若干 15 歳の天才トランペット奏者である児玉隼人をソリストに迎えました。Vol.2 は 1 月 19 日に竹本泰三指揮、ピアノに CHIAKi を迎え映画音楽をプログラミングし、こちらの公演は完売となりました。

7 月 27 日には、ゲーム音楽の演奏会を都内中心に展開する MUSIC エンジンより、人気コンテンツである「OMORI」の仙台公演を依頼され、普段クラシックのコンサートに馴染みのない方々へゲーム音楽を通してオーケストラサウンドの素晴らしさをお届けしました。

8 月 18 日には、北海道北斗市に拠点を置く道南うみまち信用金庫の 100 周年事業としてフルオーケストラコンサートを依頼いただき、周年事業に華を添えました。

9 月 15 日、16 日には、令和 3 年以来 3 年ぶりに仙台オペラ協会との共演となる、同協会第 48 回公演の「こうもり」に出演。9 月 29 日には、全国共同オペラとして指揮者である井上道義の引退公演としても位置付けられているオペラ「ラ・ボエーム」名取公演を担当。また 11 月 4 日に、多賀城開府 1300 年記念として作曲された新時代の創作オペラ「いしぶみの譜」～多賀城創世記～を依頼いただくなど、オペラ公演にも恵まれました。

12 月 15 日には、50 年前より開催されている一関第九が、コロナ禍で開催が途切れておりましたが 6 年ぶりに再開の運びとなり出演しました。

12 月 23 日には、伊藤正俊の依頼で、本人が山形県の民話に基づき作曲された交響詩「あこや姫」の CD 制作のための収録を太田弦指揮のもとで行いました。

12 月 25 日には、石巻市芸術文化振興財団の依頼により、石巻好文館高等学校とクリスマスコンサートで共演し、吹奏楽部の生徒たちと音楽で交流を図りました。

2 月には、栗原市教育委員会の依頼で久しぶりの栗原公演では、「オーケストラと『名曲』世界旅行」と題し、様々な国の音楽を人気サクソ奏者の上野耕平を招き披露しました。この公演にはもう一人のソリストであるヴァイオリンの城戸かれんも出演し、ゲストコンサートマスターも務めていただきました。

例年の依頼公演としては、6 月 6 日にアイリスオーヤマクラシックスペシャル 2024 がサントリーホールで開催され、桂冠指揮者のパスカル・ヴェロを招聘し、ソリストにはオルガンに梅干野安美を立て、オールアメリカプログラムとして

ガーシュウィンのパリのアメリカ人、コープランドのオルガンと管弦楽のための交響曲を前半に演奏。後半には創立 50 周年記念の 3 月に開催した第 371 回定期演奏会の最後に取り上げた、コープランドの交響曲第 3 番を演奏し、高らかなファンファーレをサントリーホールに響かせました。この公演は完売大入りとなりました。

七十七ふれあいコンサートは 6 月 17 日に気仙沼市、1 月 17 日に美里町で開催され、多くの子供たちにご来場いただきました。

7 月 1 日開催の仙台市市制施行 135 年記念演奏会には、指揮者に出口大地、ソリストには第 8 回仙台国際音楽コンクール第 2 位入賞のピアニストであるヨナス・アウミラーを迎え開催されました。

宮城県地方音楽会は 7 月 7 日に蔵王町、11 月 10 日に多賀城市、2 月 9 日に気仙沼市で開催され、宮城県内各地域の文化振興を支える活動のひとつとして音楽を届けています。

9 月 10 日には、オーケストラ・キャラバン公演を日本オーケストラ連盟の主催の元、9 月の第 375 回定期演奏会のプログラムをそのままに小林研一郎指揮の元、盛岡公演を開催しました。

なお、毎年 9 月に依頼を受けている仙台市野草園萩まつりコンサートは雨天のため室内楽に切り替え、屋内で代替えコンサートを実施いたしました。

10 月 4 日から 6 日には恒例の仙台クラシックフェスティバルが開催され、イズミティ 21 の改修工事が完了したことにより従来どおり 5 公演となりました。指揮者に太田弦を据え、ソリストには北田千尋（ヴァイオリン）、阪田知樹（ピアノ）、佐藤晴真（チェロ）、上野星矢（フルート）、ジュゼッペ・アンダローロ（ピアノ）など人気のアーティストを招聘し、最終公演ではコロナ禍以前に必ずプログラミングされていたベートーヴェンの第九 4 楽章も再開の運びとなり、せんくら合唱団との共演も叶いました。

10 月 12 日には、今年で第 3 回となる秋田・潟上国際音楽祭にも引き続き招かれ、レインハルト・ジーハファー指揮、千田桂大のピアノによりモーツァルトのピアノ協奏曲第 25 番とベートーヴェンの交響曲第 5 番という名曲プログラムをお届けしました。

毎年恒例の tbc ラジオ「日立システムズエンジョイ！クラシック」公演は 11 月 7 日、元正指揮者の山下一史の指揮で宮城学院中学校・高等学校管弦楽班と共演し、事前指導も含め深い音楽交流を実現しています。

12月1日には第38回岩沼第九公演に出演し、東京混声合唱団でも活躍している指揮者の水戸博之のタクトのもと地元のソリストとも共演し、味わい深い合唱を表現し大いに公演を盛り上げました。

12月7日には、「味わいつくす！クラシック～第2回『英雄』への道～」として昨年引き続き元 NHK 交響楽団首席オーボエ奏者で現在指揮者として活躍している茂木大輔を指揮者と解説に招き、ベートーヴェンをテーマとし、これに沿う選曲と分かりやすい解説でお楽しみいただきました。なおこの公演は事前レクチャーも開催しており、11月27日に茂木大輔による特別プレ講座を開催しました。

12月9日には七十七スターライトシンフォニーが開催され、ゲストアーティストとして沢田千可子、熊谷育美が出演しました。このコンサートはチャリティコンサートとなっており、集まった募金は光のページェント実行委員会と宮城県（災害復興寄附金口）へ寄附されています。

1月8日には新春恒例の藤崎ニューイヤーコンサートに出演。指揮者に田中祐子、ピアノに福島県郡山市出身の山崎亮汰を据え、オール・ベートーヴェン・プログラムとして、歌劇「フィデリオ」序曲、ピアノ協奏曲第4番、交響曲第5番「運命」を演奏し、多くの聴衆を魅了しました。

2月11日には福島県国見町より昨年引き続き依頼公演の要請があり、今回は観月台文化センター開館30周年記念、そして国見町合併70周年記念の事業として、コンサートマスター神谷未穂とオーボエ首席奏者の西沢澄博をソリストに立て、前半は映画音楽、後半は弦楽アンサンブルの作品を中心としてプログラムを演奏し、周年事業を飾りました。

2月1日には毎年日本演奏連盟と開催している「新進演奏家育成プロジェクト／オーケストラシリーズ」が開催され、オーディションで選ばれた5名のソリスト（フルート、ファゴット、トロンボーン、メゾ・ソプラノ、ピアノ各1名）と協奏曲や声楽曲で共演し、新人の育成に貢献しています。

2月15日には「第9回仙台国際音楽コンクール開催記念コンサート～優勝者による珠玉のブラームス～」として、第8回仙台国際音楽コンクールの優勝者であるヴァイオリンの中野りな、ピアノのルウオ・ジャチンをソリストに迎え開催され、多くのお客様に迎えられました。

3月1日には東日本大震災翌年の平成24年（2012年）3月から継続的に開催されている「みんなでつくる復興コンサート」（主催 TBS ラジオ、tbc 東北放送、

特別協賛ロジスティード(株)が、昨年に引き続き仙台市内(東京エレクトロンホール宮城)で開催されました。指揮者は坂入健司郎、ゲストに Little Glee Monster を、そして震災復興ソングである「わせねでや」の合唱には仙台南高等学校合唱部を迎え、「音楽の力による心の復興」をテーマに震災の記憶を風化させることなく語り継ぎ、新しい時代を切り開いていくコンサートという位置づけで曲目も構成し演奏しました。

#### (4) 室内楽

令和6年度も仙台市内のみならず、東北さらには全国各地で広く室内楽活動を行いました。

例年開催している東北電力スクールコンサートでは、青森県青森市を訪問しました。

また、三菱地所泉パークタウンまちびらき50周年記念事業新タウンソング制作関連のイベントで、パークタウン内において2回のコンサートを受注し、うち1回は副指揮者の神成大輝の指揮のもと、白百合学園小学校、中学校、高等学校のオーケストラ部がこのタウンソングをさとう宗幸と共演するなど、地域の発展に寄与しています。

3年目となる定禅寺通りミュージックカルチャー事業では、勾当台公園野外音楽堂にてポップスアーティストと仙台フィル弦楽四重奏のコラボレーション企画として、GLIM SPANKY、田島貴男と2回の共演を行いました。この事業は令和7年度も引き続き開催される予定です。ポップスとの共演は、このほかにエフエムなとり・名取市の主催により半崎美子、渡辺真知子と共演しております。

そのほか、令和6年度から始まった塩釜遊ホール主催の「めざせ！未来の音楽家」シリーズとして親子を向けの室内楽(2回)、仙台駅での室内楽公演、東北市長会総会、東日本大震災追悼式(仙台市)、東北電力グリーンプラザふれあいコンサート(2回)、宮城県地方音楽会アンサンブル公演(2回)、国土交通省観光レジリエンスサミット歓迎レセプション、オーケストラ・キャラバン広報特別イベント、第9回仙台国際音楽コンクール関連事業「はばたけコンチェルト」

(3回)、東北大学病院ウェルビーイング活動仙台フィルコンサートなどに出演し、多岐にわたり活動いたしました。

### 3 青少年音楽鑑賞及び演奏等に関する指導及びその普及

#### (1) 青少年のためのオーケストラ鑑賞会（再掲）

仙台市が主催する小学校5年生と中学校1年生を対象とする「青少年のためのオーケストラ鑑賞会」は、新型コロナウイルス感染症落ち着いたことから従来どおり児童・生徒を日立システムズホール仙台に集め、7月に8公演、11月に6公演、合計14公演開催することができました。

#### (2) 「舞台芸術等総合支援事業 学校巡回公演」及び「学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業 文化施設等活用事業」

全国各地の小中学校を訪問する文化庁主催「舞台芸術等総合支援事業 学校巡回公演」（9校11公演）に加え、「学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業 文化施設等活用事業」（2施設4公演）により、岩手、福島、栃木、埼玉の小中学校を訪問して公演を行いました。

### 4 その他目的達成のために必要な調査研究

#### (1) 演奏に必要な調査研究

日本オーケストラ連盟加盟のオーケストラをはじめ、文化庁、日本芸術文化振興会、アフィニス文化財団、ロームミュージックファンデーション、日本クラシック事業協会との積極的な情報共有・連携を通じて、新たな助成制度等について多くの知識を得ました。

毎年開催している全国のオーケストラのステージスタッフによるステージマネージャー会議は8月13、14日に香川県高松市で、またライブラリアン会議は11月11、12日に高崎市で開催され、情報共有や問題解決について活発な議論がなされました。

#### (2) 仙台フィルと第九をうたう合唱団

令和6年度は新型コロナウイルスが落ち着きましたが、感染症の発生リスク

を伴う合唱団の運営には引き続き感染症対策を行いながら、編成しました。コロナ禍以前の規模に戻すべく、「仙台フィルと第九を歌う合唱団」は約 90 名の市民合唱団をオーディションにより選出し、さらにその他常盤木学園高等学校音楽科 2 年生と宮城学院女子大学学芸学部音楽科有志を加え、160 名ほどの合唱団を編成することが叶いました。合唱団は以前のような募集や活動を行うことができ、12 月 21 日の第九特別演奏会で歓喜の歌を響かせました。

### (3) 仙台ジュニアオーケストラの指導

令和 6 年度も、学校や世代の違う子供たちが集まるため感染症対策を講じた上で通常どおりの活動を行うことができました。

10 月 27 日には第 32 回の定期演奏会を元仙台フィル副指揮者の大井剛史指揮のもと、そして 3 月 23 日にはスプリングコンサートをスーパーヴァイザーの高関健指揮で開催しました。

スーパーヴァイザーの高関健はこの 3 月のスプリングコンサートをもって退任し、令和 7 年度からは太田弦が音楽監督に就任します。なお高関健は引き続き指導に携わります。

### (4) ラジオ放送とソーシャルメディアの活用

毎月第 1 日曜日夜に放送中のエフエム仙台「仙台フィル Wave Symphony」は、令和 6 年度も楽団員 1 名と事務局員 1 名が出演し、歴代の仙台フィル演奏会より厳選した音源をセレクトしてお届けし、好評を得ました。そのほか、コンサートマスター西本幸弘が出演している「TOHKnet Sound Pizz.」でも仙台フィルの情報を発信しています。tbc 東北放送では毎月第 2 土曜日夜に「日立システムズエンジョイ！クラシック」が継続放送されており、コンサートマスターの西本幸弘、チェロソロ首席奏者の三宅進、オーボエ首席奏者の西沢澄博がナビゲータを務めています。これら放送媒体に加え、公式 X (旧 Twitter)、公式 Facebook、公式 Instagram などの SNS や LINE 公式アカウントによる情報発信を積極的に行っています。

各定期演奏会の指揮者を中心に、聴きどころを事前に仙台フィル公式 YouTube チャンネルにて配信する企画も継続しています。

また令和6年度は、定期演奏会のうち、11月の第377回（高関健指揮、エルガー：変奏曲「エニグマ」）、1月の第378回（太田弦指揮、ホルスト：組曲「惑星」）、2月の第379回（高関健指揮、スメタナ：連作交響詩「我が祖国」）を公式YouTubeチャンネルにて全曲配信しており、2万回を超える視聴回数を記録するものもあり大好評を得ています。

以 上

（敬称略）

【参考資料】

(1) 定期演奏会 (18公演)

・第372回～380回 (金・土2回公演)

会場 日立システムズホール仙台・コンサートホール 開演 金曜日午後7時・土曜日午後3時

回	開催日	出演者	演奏曲目
372	5 24(金) 5 25(土)	指揮 高関健 ピアノ イム・ユンチャン	ショパン ピアノ協奏曲第2番 へ短調 op 21 ブルックナー 交響曲第9番 ニ短調 WAB 109 (原典版)
373	6 21(金) 6 22(土)	指揮・太田弦	コダーイ ガランタ舞曲 コダーイ ハンガリー民謡「くじゃく」による変奏曲 ショスタコーヴィチ 交響曲第5番 ニ短調 op 47「革命」
374	7 19(金) 7 20(土)	指揮 広上淳一 ピアノ 小山実稚恵	尾高惇忠 音の旅 (管弦楽版) より 1 小さなコーラル 2 森の動物たち 4 優雅なワルツ 6 エレジー 15 フィナーレ～青い鳥の住む国へ～ モーツァルト ピアノ協奏曲第20番 ニ短調 K 466 マーラー 交響曲第1番 ニ長調「巨人」
375	9 6(金) 9 7(土)	指揮 小林研一郎	モーツァルト 交響曲第40番 ト短調 K 550 チャイコフスキー 交響曲第5番 ホ短調 op 64
376	10 18(金) 10 19(土)	指揮 準・メルクル	メンデルスゾーン 序曲「美しいメルジーネの物語」 op 32 交響曲第4番 イ長調 op 90「イタリア」 交響曲第3番 イ短調 op 56「スコットランド」
377	11 22(金) 11 23(土)	指揮 高関健 ヴァイオリン・堀米ゆず子	メンデルスゾーン 序曲「静かな海と楽しい航海」 op 27 ブルッフ スコットランド幻想曲 op 46 エルガー 変奏曲「エニグマ」 op 36
378	2025年 1 24(金) 1 25(土)	指揮 太田弦 ヴァイオリン 郷古廉 女声合唱 コロディア☆プラ ネテス	シューベルト 劇付随音楽「キプロスの女王ロザムンデ」 D 797 序曲 コルンゴルト ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 op 35 ホルスト 組曲「惑星」 op 32
379	2 21(金) 2 22(土)	指揮 高関健	スメタナ・連作交響詩「我が祖国」全曲
380	3 14(金) 3 15(土)	指揮 高関健 ピアノ ブルース・リウ	ドヴォルザーク 交響詩「真昼の魔女」 op 108 ショパン ピアノ協奏曲第1番 ホ短調 op 11 ニールセン 交響曲第6番 FS 116「素朴な交響曲」

(2) 特別演奏会 (16 公演)

	開催日	出演者	演奏曲目
オーケストラと遊んじゃおう [2回公演]	4 7(日)	指揮 高関健 ゲスト つのだりょうこ 協力 東北福祉大学吹奏楽部	スーザ 行進曲「星条旗よ永遠なれ」 ロッシーニ 歌劇「ウィリアム・テル」序曲より “スイス軍の行進” チャイコフスキー 音楽物語「くるみ割り人形」ほか
名曲トラベル 第1回	4 10(水)	指揮 高関健	ベートーヴェン 交響曲第6番「田園」 交響曲第5番「運命」
エンターテインメント定期 第1回	5 4(土・祝)	指揮 柴田真郁	シンフォニック コードギアス リベリオン
名曲トラベル 第2回	6 26(水)	指揮・ヴァイオリン・コンサートマスター 小森谷巧	モーツァルト セレナーデ第13番 ト長調 K 525「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」 交響曲第32番 ト長調 K 318 ヴァイオリン協奏曲第3番 ト長調 K 216 交響曲第39番 変ホ長調 K 543
サマーフェスティバル 仙台フィル with アキラさんスペシャルコンサート Vol 2	8 3(土)	指揮・ピアノ・プロデュース 宮川彬良	宮川彬良 クインテット・マジカル・オーバーチュア ショパン 英雄ポロネーズ、別れの曲、子犬のワルツ 宇宙戦艦ヤマト ほか
エンターテインメント定期 第2回	8 10(土)	指揮 太田弦 ピアノ 田村響	三枝成彰 交響組曲『機動戦士Zガンダム』 三枝成彰 『機動戦士ガンダム 逆襲のシャア』
マイタウンコンサート in 岩沼	8 25(日)	指揮 坂入健司郎 ソプラノ 小野綾子	モーツァルト 歌劇「魔笛」序曲、歌劇「ツァイデ」より“安らかにお休みください”、モテット「踊れ、喜べ、幸いなる魂よ」より I Exsultate jubilate III Alleluja ヘンデル 歌劇「リナルド」より“私を泣かせてください” ブラームス 交響曲第1番 ハ短調 op 68
名曲コレクション in 盛岡	9 10(火)	指揮 小林研一郎	モーツァルト 交響曲第40番 ト短調 K 550 チャイコフスキー 交響曲第5番 ホ短調 op 64
もりのみやこのふれあいコンサート	12 4(水)	指揮 神成大輝	スーザ 行進曲「星条旗よ永遠なれ」、アンダーソン・プリנק・プランク・プルンク、トランペット吹きの日、JシュトラウスII 喜歌劇「こうもり」序曲、チャイコフスキー・バレエ組曲「くるみ割り人形」より“花のワルツ”ほか
名曲トラベル 第3回	12 18(水)	指揮 太田弦	チャイコフスキー バレエ組曲「眠れる森の美女」 op 66a バレエ組曲「白鳥の湖」より バレエ組曲「くるみ割り人形」 op 71a
第九特別演奏会	12 21(土)	指揮 太田弦 独唱 小川栞奈、山下裕賀、樋口達哉、黒田祐貴 合唱 仙台フィルと第九をうたう合唱団	ベートーヴェン「コリオラン」序曲ハ短調 op 62 ベートーヴェン 交響曲第9番ニ短調 op125「合唱付き」

名曲コレクション ニューイヤー コンサート 2025 福島	2025年 1 11 (土)	指揮 神成大輝 ピアノ 山崎亮汰	ベートーヴェン 歌劇「フィデリオ」op 72 序曲 ピアノ協奏曲第4番 ト長調 op 58 交響曲第5番 ハ短調 op 67 「運命」
名曲コレクション ニューイヤー コンサート 2025 いわき	1 13 (月・ 祝)	指揮 神成大輝 ピアノ 山崎亮汰	
名曲トラベル 第4回	3 5 (水)	ソプラノ 宮地江奈、テ ノール 西村悟、ホル ン 山岸博、ピアノ 居 福健太郎、ヴァイオリ ン 西本幸弘、ヴィオ ラ 井野邊大輔、チェ ロ 三宅進、コントラバ ス 助川龍	シューベルト 歌曲「ます」D 550、歌曲「子守歌」D 498、歌 曲「魔王」D 328、流れにて D943 ピアノ五重奏曲 イ長調 D.667 「ます」
エンターテイン メント定期 第3回	3 20 (木・ 祝)	指揮 水戸博之 スペシャルゲスト 遠藤 瑠香、伊達花彩、天音み ほ、星咲花那	「アイカツ！」BGMメドレー 「アイカツスターズ！」BGMメドレー ほか

(3) 依頼演奏会 (69公演)

主 催 者	公 演 数	備 考
[ 公演数 ]		
文化庁 (舞台芸術等総合支援事業 学校巡回公演)	11 公演	
文化庁 (学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業 文化施設等活用事業)	4 公演	
仙台市教育委員会等 (青少年のためのオーケストラ鑑賞会)	14 公演	
仙 台 市 (含む関係団体)	10 公演	市制施行記念、せんくら、 劇場音楽堂、SIMC プレ
宮 城 県 (県民ロビーコンサート・地方音楽会)	4 公演	蔵王、多賀城、気仙沼、県 庁
七 十 七 銀 行 (七十七ふれあい、スターライトシンフォニー)	3 公演	
藤 崎 (藤崎ニューイヤーコンサート)	1 公演	
アイリスオーヤマ (アイリスオーヤマクラシックスペシャル)	1 公演	
一 般 依 頼 各種コンサート	21 公演	
依頼公演合計	69 公演	

依頼演奏会（開催 69 公演）

開催日	演奏会名（会場名）	出演者	主催者等
4.24（水）	杜の都信用金庫 県民ロビーコンサート （宮城県庁県民ロビー）	指揮 栗辻聡	主催 宮城県
4.27（土）	billboard CLASSICS（東京エレクトロンホール 宮城）	指揮 田中祐子 アーティスト ゴスペラーズ	主催 ビルボードジャパン（㈱阪神コンテンツリンク）
4.29（月）	billboard CLASSICS（仙台サンプラザホール）	指揮 円光寺雅彦 アーティスト 玉置浩二	主催 ビルボードジャパン（㈱阪神コンテンツリンク）
5.15（水）	宮城県農業高等学校芸術鑑賞会（名取市文化会 館大ホール）	指揮 碓山隆一郎 ヴァイオリン 西本幸弘	主催 宮城県農業高等学校
6.2（日）	仙台フィル弘前公演（弘前市民会館）	指揮 松井慶太 オーボエ 西沢澄博	主催（株）工藤工務所
6.6（木）	アイリスオーヤマクラシックスペシャル2024 （サントリーホール大ホール）	指揮 パスカル・ヴェロ オルガン 梅干野安未	主催 アイリスオーヤマ（株）
6.11（火） [2公演]	学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業 文化施設等活用事業（北上市文化交流センターさくらホール feat. ツガワ）	指揮 神成大輝	主催 文化庁
6.17（月）	第64回七十七ふれあいコンサート （気仙沼市民会館）	指揮 神成大輝	主催 七十七銀行
7.1（月）	仙台市制施行135周年記念コンサート （イズミティ21大ホール）	指揮 出口大地 ピアノ ヨナス・アウミラー	主催 仙台市
7.5（水） [2公演]	学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業 文化施設等活用事業（前沢ふれあいセンター）	指揮 神成大輝	主催 文化庁
7.7（日）	令和6年度宮城県地方音楽会 蔵王公演 （蔵王ふるさと文化会館・ございんホール）	指揮 佐々木新平	主催 宮城県、蔵王町
7.9（火） 7.10（水） 7.11（木） 7.12（金） [8公演]	青少年のためのオーケストラ鑑賞会 （日立システムズホール仙台・コンサートホール）	指揮 鈴木織衛	主催 仙台市
7.15（月）	仙台フィルと愉しむ『オーケストラ・ザンマイ』 Vol.1 （日立システムズホール仙台・コンサートホール）	指揮 熊倉優 トランペット 児玉隼人	主催 仙台市青年文化センター（(公財)仙台市市民文化事業団）、仙台市
7.27（土） [2公演]	OMORI コン서트 in 仙台 （日立システムズホール仙台・コンサートホール）	指揮 神成大輝	主催 MUSIC エンジン
8.18（日）	道南うみ街信用金庫100周年記念コンサート （北斗市総合文化センターかなで〜る）	指揮 太田弦	主催 道南うみ街信用金庫
9.10（火） ※再掲	オーケストラキャラバン盛岡公演 （盛岡市民文化ホール大ホール）	指揮 小林研一郎	主催（公社）日本オーケストラ連盟
9.15（日） 9.16（月） [2公演]	仙台オペラ協会第48回公演 （東京エレクトロンホール宮城）	指揮 末廣誠	主催（一社）仙台オペラ協会

開催日	演奏会名(会場名)	出演者	主催者等
9.29(日)	全国共同オペラ「ラ・ボエーム」 (名取市文化会館大ホール)	指揮 井上道義	(公財)名取市文化振興財団
10.4(金) 10.5(土) 10.6(日) [5公演]	仙台クラシックフェスティバル (イズミティ21大ホール)	指揮・太田弦 ヴァイオリン 北田千尋 ピアノ 阪田知樹 チェロ 佐藤晴真 フルート 上野星矢 ピアノ ジュゼッペ・アンダローロ	主催 仙台市、仙台市市民文化事業団
10.12(土)	第3回秋田潟上国際音楽祭 (秋田アトリオン音楽ホール)	指揮 レインハルト・ジーハファー ピアノ 千田桂大	主催 秋田・潟上音楽祭実行委員会、秋田県、秋田市、アートオフィスサイチ
10.22(火) 10.23(水) 10.24(木) [4公演]	舞台芸術等総合支援事業 学校巡回公演 (熊谷市立吉岡小学校) (滑川町立月の輪小学校)2回公演 (加須市立大利根中学校)	指揮 太田弦 チェロ金子遥亮 オーボエ 高橋鐘汰	主催 文化庁
11.4(月)	多賀城創建1300年記念事業 新時代の創作オペラ「いしぶみの譜」～多賀城創世記～ (多賀城市文化センター大ホール)	指揮 川島素晴	主催 多賀城創建1300年記念事業実行委員会
11.6(水) 11.7(木) 11.8(金) [6公演]	青少年のためのオーケストラ鑑賞会 (日立システムズホール仙台・コンサートホール)	指揮 高関健	主催 仙台市教育委員会、(公財)仙台市市民文化事業団、仙台市
11.10(日)	令和6年度宮城県地方音楽会 多賀城公演 (多賀城市文化センター大ホール)	指揮 米田覚士	主催 宮城県、多賀城市
11.17(日)	日立システムズ エンジョイ!クラシック (日立システムズホール仙台・コンサートホール)	指揮・山下一史 共演 宮城学院中学校・高等学校弦楽班	主催 tbc 東北放送
11.25(月) 11.26(火) 11.27(水) 11.28(木) [4公演]	舞台芸術等総合支援事業 学校巡回公演 (那須塩原市立三島小学校) (那須塩原市立高林中学校) (郡山市立行建中学校) (郡山市立逢瀬中学校)	指揮・神成大輝 チェロ 中村隆人 フルート 宮寄英美	主催 文化庁
12.1(日)	みんなで歌う第九の会第38回演奏会 (岩沼市民会館大ホール)	指揮 水戸博之 ソプラノ 文屋小百合 アルト 赤間夏海 テノール 田中豊輝 バリトン 深瀬廉	主催 みんなで歌う第九の会
12.7(土)	味わいつくす!クラシック第2回 (日立システムズホール仙台・コンサートホール)	指揮 茂木大輔	主催 仙台市青年文化センター((公財)仙台市市民文化事業団)、仙台市
12.9(月)	第30回「七十七スターライトシンフォニー」 (東京エレクトロンホール宮城)	指揮 松元宏康 ゲスト 澤田知可子、熊谷育美	主催 七十七銀行

開催日	演奏会名(会場名)	出演者	主催者等
12 11 (水) 12 12 (木) [3公演]	舞台芸術等総合支援事業 学校巡回公演 (富士見市立勝瀬小学校) 2回公演 (三芳町立三芳中学校)	指揮 神成大輝 トロンボーン 紺野駿人 トランペット 浦田誠真	主催 文化庁
12 15 (日)	いちのせき第九演奏会 (一関文化センター大ホール)	指揮 角田鋼亮 ソプラノ 清水智子 アルト 松岡久美子 テノール 鏡貴之 バリトン 金子宏	主催 いちのせき第九演奏会実行委員会
12. 23 (月)	交響詩「あこや姫」収録 (日立システムズホール仙台・コンサートホール)	指揮 太田弦 箏 遠藤千晶 尺八 藤原道山	主催 伊藤正俊
12. 25 (水)	仙台フィル&石巻好文館高校クリスマスコンサート (マルホンまきあーとテラス大ホール)	指揮 神成大輝 サクソフォン 齊藤健太 共演 石巻好文館高校吹奏楽部	主催 (公財) 石巻市芸術文化振興財団
25 年 1 8 (水)	藤崎ニューイヤーコンサート 2025 (日立システムズホール仙台・コンサートホール)	指揮 田中祐子 ピアノ 山崎亮汰	主催 (株)藤崎
1. 17 (金)	第65回七十七ふれあいコンサート (美里町文化会館)	指揮 神成大輝	主催 七十七銀行
1 19 (日)	仙台フィルと愉しむ『オーケストラ・ザンマイ Vol 2』 (日立システムズホール仙台・コンサートホール)	指揮 竹本泰蔵 ピアノ CHIAKI	主催 仙台市青年文化センター((公財) 仙台市市民文化事業団)、仙台市
2 1 (土)	新進演奏家育成プロジェクト/オーケストラシリーズ 第82回仙台 (日立システムズホール仙台・コンサートホール)	指揮 鈴木織衛 フルート 野口菜々水 ファゴット 鈴木桃花 トロンボーン 紺野駿人 メゾ・ソプラノ 伊藤有里 ピアノ 千釜有美子	主催 (公社) 日本演奏連盟
2 9 (日)	令和6年度宮城県地方音楽会 気仙沼公演 (気仙沼市民会館)	指揮 神成大輝 ファゴット 西口真央	主催 宮城県、気仙沼市
2 11 (火)	観月台文化センター開館30周年記念事業 国見町合併70周年記念事業 仙台フィルハーモニー管弦楽団コンサート (観月台文化センター)	指揮 松村秀明 ヴァイオリン 神谷未穂 オーボエ 西沢澄博	主催 国見町、国見町教育委員会
2. 15 (土)	第9回仙台国際音楽コンクール開催記念コンサート (日立システムズホール仙台・コンサートホール)	指揮 広上淳一 ピアノ ルウオ・ジャチン ヴァイオリン 中野りな	主催 (公財) 仙台市市民文化事業団
2 24 (月)	オーケストラと「名曲」世界旅行 仙台フィルハーモニー管弦楽団オーケストラコンサート (栗原文化会館)	指揮 松井慶太 ヴァイオリン 城戸かれん サクソフォン 上野耕平	主催 栗原市教育委員会
3. 1 (土)	みんなで作る復興コンサート (東京エレクトロンホール宮城)	指揮 坂入健司郎 ゲスト Little Glee Monster 合唱 仙台南高校音楽部合唱団	主催 TBS ラジオ tbc 東北放送